

高尾山山頂から発信！

のぶすま

「のぶすま」とは
ムササビの古い呼び名です。

vol. **43** 季刊
2016年 春号

高尾山オトシブミレポート

2015.5.1 揺籃づくり観察記録

ヒゲナガオトシブミ
Paratrachelophorus longicornis



実物大

みなさんはオトシブミという昆虫に出会ったことがありますか？
“揺籃”と呼ばれる葉巻きをつくってその中に卵を産み、幼虫が巻かれた葉を食べて育つという、変わった生活をしている小さな昆虫です。

今回は解説員が調べた高尾山のオトシブミ事情を紹介します。



中で葉を食べて成長し、成虫になって出てくる

12:50 ヒゲナガオトシブミ（メス）がやってきて葉の上を歩きはじめる。
12:55 葉の柄の近くに切り込みを入れる。すると葉が垂れ下がってくる。



13:00 巻きやすくするため葉にかみあとをつける。

13:10 下から葉を巻きあげていく。くるくる巻くのではなく、小さく折りこみながら巻き上げていく。



13:15 どこからともなくオスがやってきて交尾を始めるが、メスは休むことなく巻き続ける。



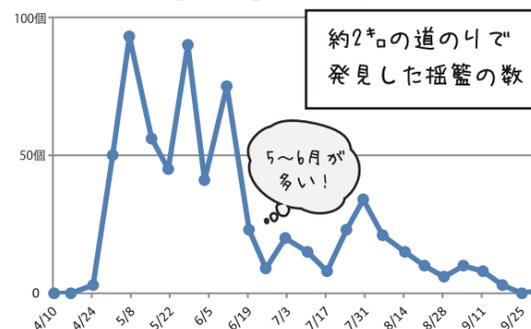
13:20 上まで巻き上げられる頃オスはどこかへ去りメスは最後の仕上げに、葉がほどけないよう折り紙の技法でいう“かぶせ折り”を使う。



13:23 切り込みを入れた場所を完全に切りはなしてしまう。揺籃はポトリと落ち、これにて完成となる。

オトシブミの活動が盛んなのは春～初夏

(調査地：日影沢林道～いろはの森コース)



約2kmの道のりで発見した揺籃の数

5～6月が多い！

4月から9月まで、毎週同じ道を歩きながらオトシブミの揺籃の数を数えてみました。その結果は、5～6月が見つかる数が多いことを示しています。

登山道を歩いていて、葉っぱを巻いているオトシブミに出会いやすいのもこの時期です。

ゴールデンウィーク期間中 6号路一方通行規制のお知らせ

今年もゴールデンウィーク期間中、特に混雑の予想される6号路に限り、上り一方通行規制が行われる予定です。

【6号路上り一方通行期間】
2016年4月29日(金)～5月8日(日)

※6号路の一方通行規制はゴールデンウィーク期間以外にも、紅葉シーズンなどの繁忙期に実施されることがあります。

プログラムのご案内 (4月～11月)

高尾ビジターセンターでは、どなたでも無料でご参加いただけるスライドショーとガイドウォークを毎日実施しています。皆さんのご参加を、心よりお待ちしております。

〈平日プログラム〉

スライドショー 11:00/14:30 (約20分間)

ガイドウォーク 13:30 (約50分間、定員10名)

〈土日祝日プログラム〉

スライドショー 10:30/11:30/14:30 (約20分間)

ガイドウォーク 13:30 (約50分間、定員10名)

※諸般の事情により、日程が予告なく変更する場合があります。あらかじめ、ご了承下さい。

解説員 しらむ vol.5

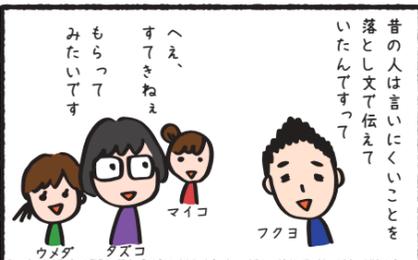
小さな男の子の小さな石

ある日、2歳の男の子がお父さんと来館しました。ぎゅっと握ったこぶしが印象的だった男の子。「何を見つけたの？」と声をかけると、小さな手を開いて小さな石を見せてくれました。数時間後、下山したはずの二人が忘れ物を探しにビジターセンターに戻ってきました。何を落としたのか尋ねると、忘れ物はあの時見せてくれた小さな石とのこと。お父さんが「似たものを拾って、これで良いじゃないかと説得したけど、これじゃない！と言われた探しに戻ってきました。」と大汗を拭いながら話してくれました。閉館後、館内を点検していると、なんとその石がちよこんと展示台の上に鎮座！「宝物だね」と声をかけた私に誇らしげに見せてくれた、キラキラしたあの顔が思い出されました。他人から見れば、ただの石。出されました。他人から見れば、ただの石。でも男の子の心の何かに響き、見つけた時の感動が大切な高尾山の想い出になりました。自分だけの高尾山の宝物を見つけてくれたことにとてもうれしくなり、私にとって大切な思い出になりました。また来館してくれるかな…と期待を込め、小さな石を今でも私のロッカーにとっておいています。

〈佐藤多寿子〉

たかおさん

「女心と落とし文」の巻



「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。

ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

高尾山の れきし vol.5

人と歴史がつなぐ道 こほとけ とうけ 小仏峠物語 第二話

♪『ずいずいずっころばし ごまみそずい 茶壺に 追われて
とっぴんしゃん 抜けたらどんどこしよ…』現代に伝わる古い童謡、
この歌と小仏峠には深い関わりがあったのです。

童謡『ずいずいずっころばし』の冒頭のくだりは、江戸幕府の使者行列「お茶壺道中」を庶民が恐れてあたふたする様子だと言われています。歌を現代語訳すると「ごま味噌をすっていると、お茶壺の行列が通りをやって来た。慌てて戸をびしゃんと閉めて家にこもった。行列が通り過ぎて行ったので、やれやれと一息ついた。」といったところでしょうか。

お茶壺道中は、幕府の制度「宇治採茶使」の俗名で、将軍家用のお茶を運ぶ幕府の使者のことです。使者達は江戸から茶壺を持って京都へ行き、特産品の宇治茶を茶壺に詰めて江戸へ運びました。このお茶壺道中が京都から江戸へ茶壺を運ぶ際に「甲州道中※」を通ったと言われています。

甲州道中は「五街道」と呼ばれる当時の主要道の一つで、江戸から甲斐を経て信濃の中山道を経由道でした。大名行列で知られる参勤交代にも甲州道中は利用され、信濃の高遠藩・高島藩・飯田藩の三つの藩が通りました。当時のトックラス達に通った甲州道中、この一部に小仏峠越えの道が含まれていました。戦国時代には抜け道に過ぎなかつた道は、江戸時代のメインルートとして大きく発展したのです。

道の各所には、流通を助けるための「宿

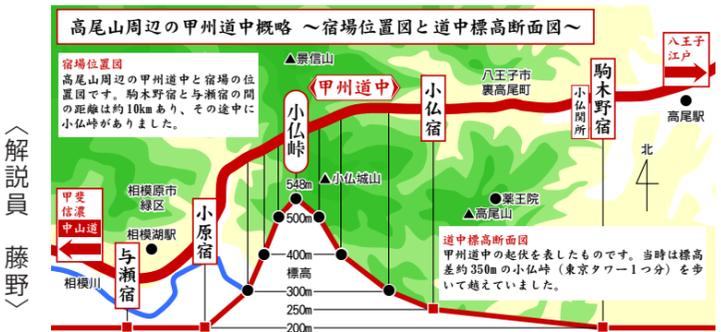
場」があり、高尾側から駒木野宿、小仏宿、小原宿、与瀬宿がありました。なお、小原宿は本陣（主に大名用の休憩・宿泊施設）が現存しています。また、駒木野宿付近には関所跡も残っています。

多くの人々の往来があったことをうかがわせる小仏峠越えの道、現在は通称「旧甲州街道」と呼ばれ、高尾駅から小仏峠を経て相模湖駅へ至る道に相当します。

そのほとんどは舗装道ですが、峠前後は今も山道で当時の面影を残しています。

江戸時代の生活習慣に思いを馳せつつ、峠越えをして、昔を追体験してみるのも高尾の楽しみ方の一つとして、面白いかも知れませぬ。

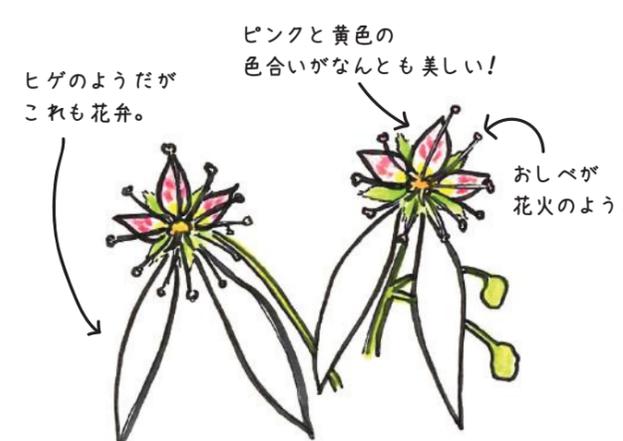
※当時呼ばれていたとされる名称。「甲州街道」と呼ばれるようになったのは、明治以降のこと。



解説員 藤野

い ち お し vol.1

ユキノシタ
まあ、なんと
良く出来たお顔立ち。



高尾山ではよく見かける植物ですが、その花の造りは一見の価値ありです！ぜひともその目でお確かめを。

解説員 梅田

高尾山の オトシブミたちは それぞれにちがう 植物の葉を巻く



ピロードアシナガオトシブミ
春先、イヌブナの芽吹いたばかりの葉を巻く。数は少なく見つけづらい。

ヒゲナガオトシブミ
高尾でもっともよく見られる。春先はイヌブナの葉を、初夏にはアブラチャンやフサザクラの葉を巻く。オスは首が長い。

エゴツルクピオトシブミ
初夏、エゴノキやハクウンボクの葉を巻く。真っ黒なオトシブミ。オスは首が長い。

ウスモンオトシブミ
キブシの葉を巻くオトシブミ。春先より夏によく見られる。

ルイスアシナガオトシブミ
前足の力こぶのような部分が特徴的。山のふもとでも見られ、ケヤキの葉を巻く。

ヒメクロオトシブミ
全身黒色でつやつや光る小さなオトシブミ。ノイバラやフジの葉の上でよく姿が見られる。

コブオトシブミ
6号路など、沢沿いの道の脇でコアカソやクサコアカソの葉を巻く姿がよく観察される。

カシルリオトシブミ
体全体に金属光沢がある。フジやイタドリの葉を巻く。

多様な植物が生育する高尾には、たくさんのオトシブミがいる

今回の調査で、高尾山では8種のオトシブミが11種の植物を利用しているのが確認されました。種によっては2種類以上の植物を利用していましたが、だいたい他の種と利用する植物が重ならないように住みわけていることがわかります。

オトシブミは、たった一枚の葉だけを食べて成虫になる、植物ととても深いつながりを持った昆虫です。たくさんのオトシブミが見られるということは、それを育むさまざまな植物が生育しているということ。多様な植物がみられる高尾山の登山道は、オトシブミの観察をするにも最高の場所です。この春は、皆さんの観察ターゲットにオトシブミも加えてみませんか？